

I 本校の新聞活用（NIE）の現状

本校ではこれまで1, 2 年生が夏休みの課題として新聞作りに取り組み、そしてその一部を新聞コンクールに出品するというを行ってきた。また、公民の授業導入時に新聞からの題材を扱うこともあった。しかし、インターネットの普及により最近では新聞を購読していない家庭も有り、新聞を身近に感じることが難しい時代になってきていることも同時に実感した。そこで、本年度研究指定校にいただいたことをよい機会と捉え、まずは新聞に接することのできる環境作りから取り組んでいこうと考えた。

II 実践のねらい（育てたい力）

様々な事象を知識として理解しようとする生徒達に、自分の考えをもち、それを表現したり発信したりすることができるようにしたいと考えた。そのためには読解力が不可欠であり、情報量の多い新聞記事を基に学習を進めていくことにより、読解力が育つことが期待される。また、スクラップ新聞の作成等により、読み手を意識して作成することで表現力も育まれると思われる。

III 研究の概要

1 新聞や社会での出来事への関心を高める取り組み

(1) 新聞閲覧コーナーの設置

①2階エントランスホール

- ・長机を並べ、そこに毎日、新聞を置き、自由に閲覧できるようにした。
- ・通常4紙（信毎、朝日、産経、読売、日経、毎日から）※新聞店より配達されたもの

②各学年棟2階ワークスペース

- ・各学年棟にあるテーブルの上に置き、自由に閲覧できるようにした。
- ・信毎1紙のみ※職員の家庭にあるもの

(2) 新聞記事の掲示

- ・各学年棟2階ワークスペースに、時々新聞記事をコピーして掲示した。
- ・中学生にも分かりやすく、興味関心の高そうなこと、興味関心を持ってほしいことを選んで掲示した。
- ・記事の簡単な説明や考えてほしいことを書き添えた。



2 社会科学習での取り組み

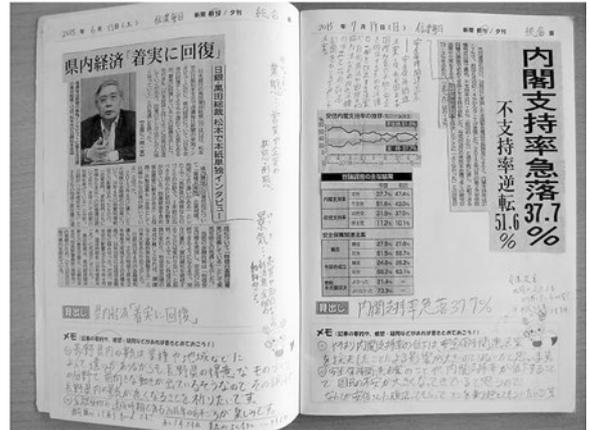
(1) スクラップ収集

- 信毎さんからいただいたスクラップ帳を活用し、毎週、気になった記事をそこに貼り、コメントを添えて提出させた。
- 課題として扱い、学期末に評価して、成績にも反映させた。

(2) 授業実践

① 毎時間の取り組み

- 今、授業で学習していることと私たちが生活している社会とをつなげるために、授業では学習していることに関連するような新聞記事をできるだけ活用することを心がけてきた。
- 信毎さんのデータベースも活用している。



② 研究授業

【单元名】

「戦後70年、新聞から戦争を知る」（3学年・歴史的分野・9月8日実施・小林敏光教諭）

【单元設定の理由】

授業クラスの生徒達は、ある事象についての考えを持つことはできても、それを表現したり、発信したりすることがやや苦手な側面がある。そのような生徒が、何かを表現したり、発信したりするためには、読解力が必要不可欠になると考えられる。

今年は戦後 70 年という節目であり、太平洋戦争について授業で学んだ生徒はメディアの影響もあり、戦争に対して興味関心を示している。特に今年の新聞には、戦争に関わる記事が多く、さらに、戦争に関することが、現代社会の問題(テロや基地問題等)としても多く掲載されている。

そこで、本单元では、歴史の学びを深めつつ、読解力や表現力を育むために、新聞を用いて戦争に関するスクラップ新聞を作成することにした。テーマを生徒の興味関心が高い『戦争』にすることで、生徒が意欲的に学ぶことができる。そして、太平洋戦争の学び直しを基礎に据え、70年前の『戦争』が70年後の今日にも名前を変え、形を変え、存在していることに気づき、『戦争』についての思いや考えが深められると考えた。また、新聞には、情報量が多いため、新聞記事をもとにスクラップ新聞を作成することで、読解力が育まれ、さらに、スクラップ新聞を作成するだけでなく、読み手を見据えて作成することで、表現力も育まれると考えた。以上の理由から、本单元を設定した。



【単元展開】

学習内容	時間
<ul style="list-style-type: none"> グループごとにテーマに沿った記事を集める。 ※事前にグループ分けのためのアンケートを実施済み。	第一時 第二時
<ul style="list-style-type: none"> 集めた記事を切り取る。 記事のグループ分けをする。 	第三時
<ul style="list-style-type: none"> 記事のグループ分けをする。 記事の精選を行う。 	第四時
<ul style="list-style-type: none"> レイアウトを考えながら、記事の精選を進める。 グループ分けした記事のコメント(要約)を考える。 	第五時
<ul style="list-style-type: none"> 記事のコメント(要約)から、小見出しを考える。 	第六時
<ul style="list-style-type: none"> グループ内でコメント(要約)と小見出しを発表し合う。 コメント(要約)と小見出しが決まったら、見出しを考える。 見出しが決まったら、最終的なレイアウトを考える。 	第七時 (本時)
<ul style="list-style-type: none"> 各グループで、スクラップ新聞の清書をする。 各グループのスクラップ新聞を見合い、感想を書く。 各グループのスクラップ新聞を貼り合わせ、巨大スクラップ新聞を完成させる。 	第八時

【本時案】

〈 主 眼 〉

グループごとに戦争についてのスクラップ新聞をつくる場面で、ここまでスクラップ新聞を作ってみて、感じたことをグループ内で発表し合い、グループごとに見出しを考えることを通して、戦争に対する思いを進んで伝えようとすることができる。

〈 本時の位置 (全8時間中 第7時) 〉

前時：グループ内で精選した記事についてのコメントを考えた。

次時：グループごとのスクラップ新聞を貼り合わせ、巨大スクラップ新聞を完成させる。

〈 指導上の留意点 〉

- 見出しには、メッセージ性を持たせることに留意して、声掛けをしながら各グループを見て回る。

< 展 開 >

段階	学習活動	予想される生徒の反応	◇教師の指導・援助 評価	時間	備考
導 入	1 グループ内でコメント(要約)と小見出しを見合う。	<p><学習問題>戦後 70 年のスクラップ新聞をつくろう！</p> <p>ア 特攻とは違うけど、それらしいものはないとは言えない。自爆テロなどがあって、例えば 9.11 にニューヨークのマンハッタンで乗っ取った航空機で貿易ビルに突入したテロ事件があった。</p>	◇前時に考えた、記事についてのコメント(要約)と小見出しを、グループ内で見合うように促す。	5分	模造紙 小見出し決定シート
	2 グループのスクラップ新聞を見て自分の思いを書く。	<p><学習課題>自分の思いを発表し合い、見出しを考えよう！</p> <p>イ 昔も今も放射能で苦しむ人が居る。原爆と原発で違うけれど、どちらも原子力で放射能という点では共通している。原子力発電はやめた方がいいのではないかと思った。</p>	◇まとめシートを配布し、ここまでスクラップ新聞を作ってみて、自分の思いや感じたことを書くように促す。 ◇書き終わったら、発表し合うように促す。	20分	まとめシート
展 開	3 グループごとに見出しを考える。	<p>ウ 僕らの感想に共通しているのは、戦争はしたくないという思いじゃないかな。だから、「戦争は二度と起こさせない」昔から今へ伝える思いってというのはどうだろう。</p> <p>エ 今でも世界中に核爆弾はある。「人は核とどう向き合うべきか」にしてみてもどうかな。</p> <p>オ サブタイトルを付けて、「消えない歴史～核なき世界を～」にしたいな。</p> <p>カ 沖縄戦と平和を結び思い。</p> <p>キ 「忘れてはいけない原爆」と「唯一の被爆国として」どっちが良いかな？</p> <p>ク 誰のための特攻だったのか。止まらない特攻。</p> <p>ケ 見出しは、やっぱり真ん中に置いた方が、見やすいし、インパクトがあると思うよ。</p> <p>コ 模造紙一枚に収めるから、コメントの字の大きさをもう少し工夫して書いた方がよさそうだぞ。</p> <p>サ 見出しは、目立つ色で書いて、記事もマジックで枠を囲ったらいいと思うよ。</p>	◇コメント(要約)や小見出し、さらにまとめシートを参考にしながら、グループごとにホワイトボードを使って、見出しを考えるように促す。 ◇見出しには、メッセージ性を持たせること確認する。 ◇見出しが考えられないグループには、各自が考えたコメント(要約)や小見出し、まとめシートをもう一度見返すように促し、伝えたいことを挙げながら、まとめるように声掛けをする。 ◇見出しの分量によっては、レイアウトがその都度変わって良いことを確認する。 ◇記事の配置やコメント(要約)の配置、見出しの配置の最終的なレイアウトを考え、清書するように促す。	20分	ホワイトボード スプレーのり
	4 次時への見通しを持つ。	シ 他のグループのスクラップ新聞がどうなっているか見るのが楽しみだ。	<p>グループワークの中で、見出しを考えたり、レイアウトを考えたりして、積極的に自分の意見を言い、進んでスクラップ新聞を作ろうとしている。(取り組む態度)</p> <p>◇次時にやることを伝え、次時への見通しを持たせる。</p>	5分	マジック
終 末					

< 成 果 >

・社会科の中の言語活動

本單元の中では、多くの言語活動が見られた。例えば、記事を集め要約することや、自分の意見を発表すること、友と意見交換をすることなどである。特に本時の中でも多く見られ、「書く」「話す」「聞く」「読む」という場面が多く見られ、こちらが意図する読解力や表現力の伸長が見られたように感じた。

- 多角的に見る視点

3-3の授業では、「原爆①」「原爆②」「特攻隊」「沖縄戦」「空襲」「疎開(学童疎開)」の6テーマでグループ編成したが、例えば、特攻というものが「テロ」という形で、疎開が「難民」という形で現代に残っているということが、新聞を用いたからこそ、生徒が見いだすことができたのではないかと感じた。「かつての戦争を二度と繰り返していけない」という生徒の言葉に深みと力強さを感じた。



IV 研究のまとめ

- 1 新聞が常に身近にあるような環境作りを工夫したことで、休み時間などに新聞を見ている生徒が見られるようになり、生徒の新聞への関心を高めることができた。
- 2 環境作りやスクラップ収集などで新聞を読む機会を作ったことで、社会の出来事への関心も高められたと思う。
- 3 授業などでの活用を進めたことで、学習していることが実際の社会と深く関わっていることに気づくことができた。

V 来年度への課題

- 1 学校全体としてNIEの取り組みをどう広げていくか。
- 2 スクラップ収集の内容の進化
- 3 今年度の実践を踏まえた上で、来年度の授業公開に向けた研究の方向性（社会科学習へのNIEの位置づけ、情報の発信など）